

# 女性が結核対策にどう貢献できるか？ タイ国チェンライ地方ワークショップに参加して

結核研究所国際協力部

研究員 堀井 直子

本年1月12日、タイ国チェンライ地方（タイ北部のミャンマー、ラオス国境に隣接）において（財）結核予防会／結核研究所、タイの結核エイズ研究財団、チェンライ県立病院、チェンライ県赤十字委員会との共催で「女性の結核予防とケアにおける役割」と題したワークショップを実施した（資金元は複十字シール募金）。タイはWHO（世界保健機構）が定める世界の結核まん延国のひとつに指定され、2008年度WHO世界の結核報告書によると、結核患者数は6万3,000人を越えるとされ、世界でもランキング第18位に上る。チェンライ県は、タイ北部8県の中でも結核報告率が2番目に高いことで知られている（結核エイズ研究財団、結核研究所、2008年）。



ワークショップ参加者代表と共に（左から3人目より野内ジンタナ研究員、石川信克所長、筆者、山田紀男国際協力部長）

今回実施したワークショップには、チェンライ県で活動する女性グループの代表（赤十字婦人会代表、チェンライ市庁女性支援の会代表、山間部族の女性リーダー、民間ビジネスセクター代表、他）計33名が参加した。結核をテーマにチェンライ地域で活動する各種グループの女性代表者が集ったのは初めての試みであり、大きな反響を呼んだ。女性が結核患者へ支援の手を差し伸べ、結核拡大の予防、ひいては地域保健の改善の担い手に、とのメッセージを参加者の一人ひとりが真剣に受け止める積極的な姿勢が印象的であった。

ワークショップは講義、プレゼンテーション、グループディスカッションから構成され、結核に関する基礎知識や結核対策の重要性について認識と理解を深め、今後各グループが、具体的にどのような貢献ができるかについて協議し意見交換する場となった。特別講演として結核研究所石川所長より、日本における結核予防婦人会の結核対策への貢献について発表があり、タイ国で活躍する女性団体の参加者は深い感銘を受け、今後地域で



参加者全員で記念撮影

女性団体がイニシアチブを取り結核根絶を目指す可能性を示唆する内容となった。また日本の結核予防婦人会によるチェンライ県への訪問と日本とタイで活動する婦人会の交流会を行うのはどうか、との提案に対し、会場からは賛同の拍手喝采による反応があった。

グループディスカッションでは、①結核患者をケアした経験があるか、②無償による患者への支援活動、③家庭訪問によるDOTS支援、④結核患者への経済的支援の可能性について参加者が協議した。地域で結核早期発見のための普及活動を行うこと、結核への偏見をなくし知識の普及に貢献すること、結核患者に対して精神的な支えとなる支援を行うこと等に参加者の大多数が賛同した。また地域各種団体（赤十字、母親優等生支援の会など）への資金要請の可能性を示唆し、各グループ代表者らが活動の資金調達のための計画策定を提案した。今回参加した各団体女性代表者の多くが、今後チェンライ地域における結核対策へ積極的に貢献していきたい等との意見交換が活発に行われ、有意義なワークショップとなった。



グループディスカッションで山間部族女性グループリーダーが熱心に意見を述べ、それに耳を傾ける参加者たち